

地方都市における食料品の店舗・宅配による買物実態に関する基礎的研究 —高齢者・非高齢者の比較分析—

宇都宮大学 学生会員 ○飯嶋 茂樹
宇都宮大学 学生会員 浅野 周平
宇都宮大学 正会員 長田 哲平
宇都宮大学 正会員 大森 宣暁

1. はじめに

自動車利用を前提とした郊外開発が行われてきた地方都市において、買物弱者問題の深刻化が予測されている。さらに、人口減少や高齢化が進行することで加速化するとされ、対策が急がれる。一方で、買物方法は多様化しており、店舗での買物の他に各種宅配・通販サービスによっても生鮮食品を購入できる状況になっている。

買物の実態や買物弱者に関する既存研究を見ると、伊勢ら(2013)¹⁾は買物方法選択の要因と買物弱者の個人属性の関係を明らかにしている。植田ら(2012)²⁾は実空間での買物からサイバースペースへの移行について分析している。他にも買物行動や買物弱者に関する研究は多くなされている。しかし、食料品の買物の実態として買物方法の使い分け等を分析したものは少ない。そこで本研究では、地方都市における食料品の買物について店舗での買物と宅配による買物の実態を明らかにし、高齢者と非高齢者の傾向を分析する。

2. 調査の概要

本研究では、栃木県宇都宮市のスーパー4店舗にて食料品の買物に関するアンケート調査を行った(表-1)。なお、65歳未満を非高齢者、65歳以上を高齢者としている。

表-1. 調査の概要

配布日	2015/10/31, 11/4, 11/8, 11/10
配布回収	スーパー4店舗にて直接配布(3000部)、郵送回収(1117部)
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・個人属性 ・店舗での買物行動と意識 ・宅配での買物行動と意識 ・買物不便時の買物方法
個人属性	<ul style="list-style-type: none"> ・性別：男性 215 人(19%)、女性 875 人(78%) ・年齢：非高齢者 745 人(67%)、高齢者 343 人(31%) ・自動車利用：利用 936 人(84%)、非利用 167 人(15%) (非高齢者の利用 664 人(89%)、高齢者の利用 253 人(74%))

3. 食料品の買物の現状

(1) 店舗での買物

店舗での買物頻度は、週4回以上が60.4%であり、週2~3回を加えると94.6%となった(n=1067)。また、全体の頻度のうち着目する店舗の頻度の割合を店舗利用頻度割合と定義し、分析した。なお、頻度の高いものから順に店舗1、店舗2(最大で5店舗)としている。店舗1で56.0%、店舗2を加えると80.1%となった(n=998)。交通手段は店舗利用頻度割合を用いて重み付けをし、交通手段分担率として分析した。自身の運転による買物行動が68.6%と最も高く、次いで徒歩が15.3%、自転車が11.9%となった(n=979)。店舗の利用理由を見ると、「自宅から近い」が92.0%と最も高く、次いで「品揃えがよい」が71.8%、「品質・鮮度がよい」が64.6%、「食料品以外の買物ができる」が63.8%となった(n=1089)。

(2) 宅配での買物

宅配の利用率は23%であった(n=1086)。宅配利用者の利用頻度は、週2回以上の利用は8.2%であった。週1回の利用は48.7%であり、最も多かった。また、週1回未満は43.1%となった(n=230)。宅配の利用理由を見ると、「店舗で買えないものが買える」が58.3%と最も割合が高く、次いで「荷物を運ぶ手間が省ける」が57.1%となった(n=254)。

(3) 店舗・宅配による買物と年齢の関係

店舗・宅配による買物と年齢の関係を分析し、2群の母平均の差の検定、2群の母比率の差の検定を行った。

店舗利用頻度割合と年齢の関係をみると、店舗1で非高齢者54.1%、高齢者60.1%となり、有意差が見られた(p=0.000)。そのため、高齢者は1つの決まった店舗で買物する人が多いといえる。店舗の利用理由と年齢の

キーワード 食料品の買物、買物弱者、宅配

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2 宇都宮大学工学部 TEL028-689-6224 E-mail:plan@cc.utsunomiya-u.ac.jp

関係を表-2.に示す。「勤務先から近い」、「買物以外の用件を済ませられる」、「夜遅くまで営業している」で非高齢者の値が高くなった。非高齢者は仕事のため買物にあてる時間が少なく、限られた時間で買物を済ませていると考えられる。

宅配の利用率と年齢の関係を見ると、非高齢者 26.5%、高齢者 16.0%となり、有意差が見られた($p=0.000$)。宅配の利用理由に関する検定結果を表-3.に示す。「荷物を運ぶ手間が省ける」で非高齢者の値が高くなった。

表-2. 店舗の利用理由に関する検定結果

項目 (*: 有意差あり)	比率 (%)		p 値
	非高齢者	高齢者	
自宅から近い	92.4	92.9	0.893
勤務先から近い*	27.4	7.4	0.000
駐車が狭い	46.4	45.7	0.833
店の近くが渋滞しない*	8.8	12.9	0.042
値段が安い*	59.3	71.8	0.000
品揃えがよい	71.8	71.8	1.000
品質、鮮度がよい	63.9	63.2	0.823
食料品以外の買物もできる	65.7	60.4	0.100
買物以外の用件を済ませられる*	36.2	27.0	0.003
子供連れて買物しやすい*	12.5	1.8	0.000
店の雰囲気、接客態度がよい	26.7	26.1	0.823
朝早くから営業している	14.1	11.7	0.278
夜遅くまで営業している*	21.7	10.4	0.000
友人、知人に会える*	2.0	4.3	0.037

表-3. 宅配の利用理由に関する検定結果

項目 (*: 有意差あり)	比率 (%)		p 値
	非高齢者	高齢者	
店舗まで移動する必要がない	40.7	38.5	0.768
交通費がかからない	11.9	17.3	0.299
荷物を運ぶ手間が省ける*	62.9	42.3	0.007
値段が安い	20.1	11.5	0.156
品揃えがよい	17.0	9.6	0.190
店舗で買えないものが買える	57.7	67.3	0.211
食料品以外の買物もできる	28.4	36.5	0.253
営業時間にしばられない	33.0	25.0	0.270
店員対応がなく、面倒でない*	3.1	9.6	0.043
知人に会わずに買物ができる	3.1	0.0	0.199

(4) 店舗と宅配での買物の使い分け

宅配利用者のみを対象とし、どのように店舗と宅配の買物を使い分けているのか分析した。

頻度について、宅配利用頻度割合(店舗と宅配の頻度の合計のうち、宅配の頻度が占める割合)を用いて分析した。宅配利用頻度割合の平均値は 23.5%となった($n=176$)。年齢で比較すると、非高齢者で 22.1%、高齢者で 29.3%となり、有意差が見られた($n=174, p=0.023$)。このことから、高齢者について宅配の利用率は少ないが、利用者にとっての重要性は高いといえる。

購入品目について、宅配利用頻度割合を用いて重み

付けをして分析した。購入品目による使い分けと年齢の関係を見ると、「惣菜・弁当・パン」で有意差が見られた($n=139$)。非高齢者に比べ、高齢者は惣菜や弁当を宅配や通販で購入しているといえる。

表-4. 店舗と宅配の購入品目に関する検定結果

項目 (*: 有意差あり)	非高齢者		高齢者		p 値
	店舗 (%)	宅配 (%)	店舗 (%)	宅配 (%)	
生鮮食品	84.3	15.7	84.7	15.3	0.921
惣菜・弁当・パン*	91.6	8.4	73.9	26.1	0.043
レトルト・インスタント・冷凍食品	64.7	35.3	43.2	56.8	0.052
お菓子	84.7	15.3	84.2	15.8	0.944
飲料	75.0	25.0	61.2	38.8	0.136
荷物になるもの	45.2	54.8	38.3	61.7	0.547

4. 買物弱者を想定した場合の買物に関する分析

「高齢になり、自宅近くに店がなく、自動車に乗れない」という状況になった場合に選択する買物方法(以下、買物不便時の買物方法)を尋ねた。買物不便時の買物方法と年齢を見ると、「宅配を利用する」(非高齢者 58.2%、高齢者 33.3%, $p=0.000$)、「移動販売を利用する」(非高齢者 17.5%、高齢者 31.0%, $p=0.000$)で有意差が見られた。このことから、宅配は特に非高齢者に、移動販売は高齢者に有効な買物支援である可能性がある。

5. おわりに

本研究では、地方都市である宇都宮市における店舗と宅配の買物の実態と住民の意識を明らかにした。高齢者は 1 つの決まった店舗で買物する傾向があり、宅配の利用率は低いものの、利用者にとっての重要性は高いことがわかった。非高齢者の買物については、勤務地や勤務時間との関係が強いことがわかった。

謝辞: 本研究を遂行するにあたり、アンケート調査にご協力いただいた栃木県経営支援課の皆様へ深謝する。また本研究は、平成27年度宇都宮大学地域志向研究支援事業の助成を受けたものである。

参考文献

- 1) 伊勢昇, 荘司匡岐, 森一也「個人属性と地域特性を考慮した買い物弱者の買い物行動様式選択に関する要因分析」土木計画学研究・講演集 vol.48(2013)
- 2) 倉持裕彌, 谷本圭志, 土屋哲「中山間地域における買い物支援に関する考察-移動販売に着目して-」社会技術論文集, Vol.11(2014)